

Y14a 全国の高校生に君天を！ ver.1 郡山市ふれあい科学館の試み

水谷有宏（郡山市ふれあい科学館）、室井恭子、縣秀彦、浮田信治、福島英雄、古荘玲子（国立天文台）

国立天文台で1999年から始まった高校生を対象とした観測実習「君が天文学者になる4日間」(略称：君天)を、郡山市ふれあい科学館にて「君が天文学者になる3日間 at 郡山」として平成20年3月20日から22日に実施した。科学館では市内高校の自然科学系の部活動を支援する事業を展開しており、科学館と高校生との連携を深めている。そこで、県内を中心とした高校生に君天を通して、より天文・宇宙への興味・関心を喚起することを目的とした。研究テーマの決定から、観測、データ解析、考察、発表までを高校生が主体となって行う「君天型指導方法」は取り入れつつ、口径15cmクラスの小口径の天体望遠鏡と冷却CCDカメラなどを使った観測システムを構築することで、高校生が天文学の研究にチャレンジできるような環境を整えることができ、実習当日も十分な観測データが得られた。さらに、実習した高校生の半数以上は地元高校であり、指導する学生スタッフも東北地方からの参加が見られ、開催後も高校生が直接科学館に来て今後の研究について相談するなど、地方開催ならではの効果が見られた。このように、大学や研究機関と、高校生とをつなぐ架け橋として、科学館のような地方の社会教育施設が果たす役割は非常に大きなものであり、君天を全国で行うことは、高校生に対する高い教育効果が得られるだけでなく、科学館や大学(大学生)に対しても大きな利点が見られることが具体的に確認できた。このように、君天型指導方法を取り入れた実習を研究施設でも宿泊施設でも無い地方の科学館が行うにあたり、これまでの君天での研究内容や経験を活かすことで、国立天文台とは全く異なる環境のもとでも、以前のような高い教育効果を得ることができた。今回の報告では、郡山での君天を通して、高校生にどのような教育的な効果が見られたか、また科学館で開催する場合の重要性や利点、問題点などについて詳しく紹介する。